

復興に向けて出来ること

—「佐原の底力展」開催—

What Can We Do for the Restoration?

—Sawara-no-Sokojikaraten was Held!—

東日本大震災により、千葉県香取市佐原では重伝建地区のみならず広い区域が被災しました。佐原PJでは復興に向け、何か出来るかを住民や来訪者の皆さんと共に考える「佐原の底力展」を開催しました。

text_muramoto



▲夜まで盛況だった底力展



▲談話スペースは子供たちに大人気!



▲市役所と方と一緒に

本年度の盆ふえすたに合わせ、8月13日(土)～15日(月)に「佐原の底力展」と題した震災復興調査の成果展示を行いました。東日本大震災以降の佐原の復興状況、市民の取り組みを、調査する上で見えてきた「底力」を軸として紹介し、盆ふえすたに訪れる市民や観光客に「香取市全域における被災を知り」、「各自が佐原の復興へ向けて出来ることを考えてもらう」ことを目指しました。来場された方々には大好評で、食い入るように30分以上かけて展示を見てくださる方が何人もいたことは

PJ 冥利に尽きるなあ、と感じました。そして、何よりも感動したことは、昨年自分達が取り組んだ下新町での土間や寺での灯りの演出が、今年も住民の方々の手で行われていたこと。手前味噌ですが、昨年私が関わらせていただいたお家の方が「村本君がせっかくやってくれたことを一度きりで終わらせなかったから今年もやることにしたの。」とおっしゃって下さったときに、本当に佐原PJをやっている良かった…と心から思いました。

博士・修士論文審査会開かれる!

—発表者からのコメント—

The Final Defense of Dissertation was Held!

—Comments from Presenter—

8月19日(金)に博士課程3年の後藤智香子さんの博士学位請求論文審査会、8月12日(金)に修士課程2年の李璠さんの修士論文審査会が行われました。論文題目はそれぞれ「住民主体による私有空間の公共的利用に関する研究 - 支援制度を通じた住宅・庭先・緑地の公開を事例として -」、「北京市の歴史的住宅区における商業化した街路の外部空間構造と利用形態に関する研究 - 南鑼鼓巷地区をケーススタディとして」です!

D3 後藤 智香子

本研究は、既成郊外住宅市街地の住環境の維持向上に向けた、住民主体による私有空間の公共的利用について研究したものです。具体的な事例として、財団法人世田谷トラストまちづくりの地域共生のいえづくり支援事業制度、戸田市の三軒協定制度、都市緑地法に基づく市民緑地制度を取り上げています。審査会では、先生方から既往研究レビューや「公共的利用」等についてご助言いただきました。私はディフェンスをした、というよりも先生方からの的確なご助言にうなずくばかりで、..とまかくあと1週間、修正がんばります。

M2 李璠

皆様のお陰で8月12日(金)に修士論文審査が無事終わりました。研究対象地は今まで人生の80%の時間を過ごした北京のまちであり、



▲10月入学の仲間たちと共に

研究の動機はこのまちの持つ

長い歴史と未来へとつながるこの一瞬を記録したいという思いでした。敷地であった「南鑼鼓巷」に調査で何回訪ねても飽きない原因は何だろうとずっと考え続け、やはり千年前のまちの構造と何百年前の建物だけではなく、このまちに住む人々と彼らの生活に従って起きた変化が魅力の一部だと気づきました。街中に何回引越しをしても20年間営業し続けたお店の店主や、お店を閉めても建物自体を賃貸に出さず30年前の様子をそのまま残したおばあさんなど、激しい変化の中で、自分の意識を守り続けている人たちのお話は研究以外のことも勉強になりました。これから論文の修正、梗概と製本を頑張ります。



▲審査会の様子



▲質問に答える後藤さん



前号、前々号に引き続き、黒瀬助教によるルンビニプロジェクトのエッセイの最終回です！

黒瀬 武史 助教

コッシュ博士と聖園の中心にある Maya Devi 寺院へ。正方形の薄いレンガ色をしたテラコッタタイル。これならレンガと勘違いをすることはないから問題ないとコッシュ博士。なるほど。でも少し色が濃いかも。寒い中、立ち話をしていたら、どこで聞きつけたのか、副議長も加わる。何としても明日までに結論をだして欲しいと言う。これまで海外の専門家からは、どんな整備プロジェクトにも No と言われ続けてきた。でも、ドナーの強い意向と、管理上の問題もあるなかで、何もやらないわけにはいかないと。もし決まらなければ、あの材料で元のデザイン通り作ることにと言われ、コンクリートのインターロッキングの山を指差された。もう、材料を手配していたとは。

相当なプレッシャーのなか、チームでもう一度、話し合う。寒い中で一時間以上、みんなで悩んだ。よし、テラコッタタイルにしよう。サンプルのなかで一番薄い色を選んで、LDTの技術者に念を押す。素焼きに近い色にしてほしいと。歩道のルートも全員で悩んだ。まずは、中途半端なサイズで書かれていたタイ案のグリッドを丹下プランの基本単位である 80m, 40m に変更する。現在は柵で囲まれている聖園中央部だが、本来は水域で覆われているエリア全体が聖園として、一体となるべき。丹下プランの基本的なコンセプトを再確認しながら、アショカ王の石柱から、軸線上の歩道を門の外まで、北へまっすぐに延ばした。遺跡の南側の現在はあまり使われていないエリアにも少しだけ歩道を加え、祈りのゾーンを設けた。祈り



▲北側の入口からアショカピラーに向かって歩く巡礼者

のための十分な場所が足りないという現場の意見と、遺跡が集中する聖園中央部において大人数で礼拝行為を行うことで、遺跡に損傷が加わることを恐れる保全側の論理の妥協点が、南側への伸展だった。タイで育ったナッタポンと中国出身のシュウランさん、リー君、日本で育った僕、想像する祈りのスタイルも微妙に違う。一人ずつ意見を積み重ねながら、プランを決めていった。

翌日、完成したプランをもう一度プレゼンテーション。みんなが納得するかたちで何とか案をまとめることができた。その日の昼、副議長からチーム全員が食事に招かれる。実は、学生とビールで打ち上げでもやろうかと思っていたのだが断るわけにもいかず。後になって、大使館の方に聞いた。ネパール人が食事を振る舞うというのは、最大限の感謝の証であると。出来上がった歩道をよくよく見てみると、細かい点は、提案通りになっていない。祈りのためのプラットフォームも描いていたより、ずっと大きくなっている。路肩のレンガの上に土を被せていないため、まだ完全にはレン



▲計画した意図通り、離れると歩道はほとんど見えなくなる

ガが隠れていない。でも、さすが熱帯の雨期。すくすくと育った芝生と雑草がすでにレンガを覆い始めていた。決してレンガの上の草を抜かないように LDT の担当者にも何度もお願いした。

すべては思い通りにはならなかったけれど、初めて会った考古学チームは最大限の知恵を貸してくれた。そして現場の技術者は、僕らの提案を手に入る材料で、最大限実現してくれた。バックグラウンドが違うナッタポン、シュウランさん、リー君という国際的なチームで議論したことで、デザインの方針もシンプルで関係者全員が納得できるものになったのだと思う。小さな歩道のデザインだったが、国際プロジェクトの醍醐味が詰まったデザインのプロセスだった。

と、感慨に耽っていたら、次の依頼が来た。アショカ王の石柱の正面に置く線香台と燭台を考えてほしいと。うれしい知らせだが、今回も期限は2週間。なんだか、うまくのせられているような。まあ、いいか。

(完)



鹿児島 KAGOSHIMA-project
プロジェクト

M1 浅野 純子

8月17日(水)～22日(月)に鹿児島PJの現地調査を行いました。鹿児島PJでは、11月1日(火)～6日(日)までの6日間、まちの魅力を発信する情報拠点施設USK(アーバンステーションカゴシマ)を複数設置することによって、既存の中心市街地とは別の魅力を持つ新たな境界の創出を目指す社会実験を行います。今回の現地調査では、鹿児島大学建築学専攻・建築学科の学生さんたちとともに、USK内のコンテンツ等を考えるWSを2日間開催しました。真剣な議論が飛び交う中で非常に大きな収穫も得られ、11月の本番に向けて、メンバー全員が更に加速度を増していく所存です！



▲伝統ある百貨店・山形屋



▲鹿児島大学とのWSの様子

大槌復興 OTSUCHI-project
プロジェクト

text_omori

選挙を8月末に控え、まだまだ復興の青写真が描けていない大槌町ですが、大量の瓦礫が撤去されて片付いた市街地には夏草が生い茂り、むしる生命の息吹すら感じました。そんな中、社会基盤学専攻の景観研究室が主体となり進めていた復興屋台が7月24日(日)ついにオープンを迎えました。当日の準備は大変でしたが、営業を始めた屋台を見るとその苦労も吹き飛びました。経営していた居酒屋兼自宅を流された夫妻が屋台を切り盛りし、町の方も集まってこられました。復興屋台は一つの成功を見たと思いますが、これからいかに町の復興につなげていか、試行錯誤が続きます。



▲ついにオープンした復興屋台



▲隣の建設会社の方がパワーショベルを出して下さいました

Information

8・9月の予定

- 8月30日 第一回神楽坂勉強会
- 9月10日 鞆の津 ともえ祭り

★ 編集後記

矢吹 剣一

あっという間のプロジェクトの夏。8月もう終了です。本日(あ、もう日付が…)まで早大にて建築学会大会が開催されてましたが、打ち上げに都市デザイン研OBの阿部正隆さん(前編集長!)と空間計画研OBの小島良輝さんが来てくださり、大盛り上がりでした。OBOGの皆さま、是非気軽に遊びに来てください！